

インターバンクの声（2015年10月21日）

10月の米連邦公開市場委員会（FOMC）がいよいよ来週に迫り、委員会メンバーの金融政策に関わる発言は昨日からFOMCが終了するまで御法度の期間に入った。いわゆる「ブラックアウト」ルールというもので、日本でも日銀の金融政策決定会合時に同じような取り決めがあり、その期間はFOMCに比べると短い。会合の2営業日前から会合終了当日の総裁会見終了時までとなっているようだ。欧州中央銀行（ECB）理事会もFOMCと同様に会合一週間前からブラックアウト期間入りする決まりだったように記憶しているが、先週末はノボトニー理事が「インフレ率は明らかに目標を下回っている。追加緩和が必要」と発言してユーロが結構売られた。さらに昨日も同じく理事会メンバーのノワイエ仏中銀総裁が「量的緩和策の一段の調整は不必要」と発言、当然ユーロのサポート材料となった。私の記憶違いなのか、ルールが変わったのか。もし変わっていなければECBはどうなっているのだろうか。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。